上野動物園　見どころ新聞
ZOO TODAY
10月号
（No.504　2026年9月29日発行）



東園では



天然記念物の動物 Part１：ニホンカモシカ展示再開！…①

五重塔周辺の工事が終わり、10月１日から再び観察できるようになります。
「いない？」と思ったら、展示場を地面から岩壁まで、よーく探してみてください。景色にとけこむように岩場にいるかもしれません。ニホンカモシカは、野生でも山地の森林や急な岩場を利用して、草や木の葉などを食べてくらしています。周囲の岩肌に似た灰色の毛は、景色にまぎれて身を守るのに役立ちます。
ニホンカモシカは日本固有種で、国の特別天然記念物に指定されています。１０月１日から１１月３０日までは東京文化財ウィーク。この機会に、当園の天然記念物の動物たちを観察してみましょう。


足の拡大

天然記念物の動物 Part２：オオワシの足に注目！…②

日本最大のワシです。冬に北海道などに飛来し、おもに海辺で魚を採食します。観覧通路に近い止まり木にいることも多いので、ぜひ黄色い足に注目してください。とても太くて頑丈な指ですが、とくにヒトの親指のように使う後ろ向きの指と爪がひときわ立派です。この指と爪で、がっちりと魚を捕えます。さらに裏は細かい凹凸で滑り止めになっており、ぬるぬるする魚が跳ねても逃しません。
開発の影響のほか、銃猟されたエゾシカの死体を鉛弾とともに食べて鉛中毒で死ぬことなどで、生息数が減少しています。

トキ類３種がツル舎に集合！…③

現在アフリカクロトキ舎が工事中なので、トキ類がツル舎に間借りをしています。この機会にツルと比較観察してみましょう。体のわりに長い足やくちばしは、ツルと同じく浅瀬を歩き、水中から餌を取り出すのに適しています。一方で、ツルとちがって後ろ向きの指が長くて木の枝をつかめるので、木の上にとまることができます。もうひとつ、ツルにはない特徴が「光沢のある色」。ホオアカトキやハゲトキの全身の羽、そしてアフリカクロトキの翼の後端は、色素ではなく光を反射して緑や紫色を出しています。



アフリカクロトキ

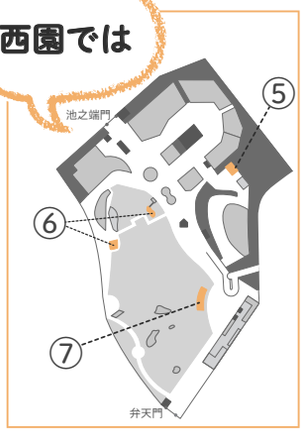


公園内でコウモリを探してみよう！…④

10月になると17時前後には日が沈むため、動物園の帰り際に上野公園内の水辺や木の多い場所で野生のアブラコウモリがひらひらと飛んでいる様子が観察できるかもしれません。鳥と見間違えやすいですが、不規則な飛び方をしたり、お尻のあたりが三角形になっていたりしたらそれはコウモリです。
10月9日～12日には、「秋の夜のどうぶつえん」を開催します。この期間中、東園　総合案内所横のズースタジオでコウモリの企画展示を行いますので、ぜひお越しください。

「秋の夜のどうぶつえん」詳細はこちら➡
公式HP

西園では



においで伝えるシセンレッサーパンダ…⑤

10月28日は、上野動物園にジャイアントパンダが初めて来園したことにちなむ「パンダの日」。同じ「パンダ」の名をもつレッサーパンダを観察してみましょう。歩いている途中で、木や岩のでっぱったところにお尻をこすりつけることがあります。これは、肛門のわきにある分泌腺で自分のにおいをつける「マーキング」です。ここでは、2頭それぞれが残したにおいを、お互いにかぐ様子も見られます。野生では、単独行動をするので、自分のにおいを残してなわばりを示したり、他の個体のにおいをかいで存在などの情報を読み取ったりしています。

「パンダの日」を記念した観察スタンプラリーを行います！
詳しくはこちら➡ 公式HP





10月30日はキツネザルの日―「輪尾（ワオ）」に注目…⑥

白黒の「輪」模様の「尾」が、ワオキツネザルの名前の由来です。この尾は、木の上を移動するとき、バランスを保つのに役立ちます。また、オスの前足の内側には分泌腺があり、オスはそのにおいを尾につけ、歩くときに高く上げて周囲に振りまきます。さらにこれからの季節、肌寒くなると群れて身を寄せ合い、尾を首に巻いて温まることもあります。
10月の最終金曜日は「世界キツネザルの日」。この機会にキツネザルに関心をもっていただけたらと思います。

天然記念物の動物 Part３：ニホンコウノトリ２羽同居…⑦

別の場所で飼育していた１羽が移ってきて２羽になりました。ただし両方メスなので、寄り添うことはなく一定の距離感を保ちながらの同居生活です。
２羽になったぶん、とても観察しやすくなりました。ツルやトキと同じく、長い足とくちばしを生かして水辺で餌をとります。もし近くに来たら、目の周りの赤い部分をよく見てください。ここは羽ではなく、皮膚を透かして血液で発色しています。
日本では特別天然記念物に指定されたものの1971年に一度絶滅。その後、海外から導入したもので野生復帰の取り組みが始まり、現在も続いています。

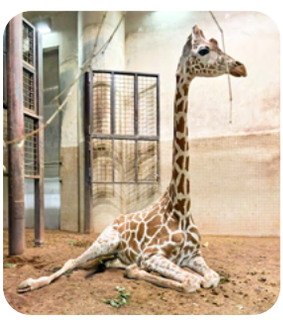


よくある質問
前号アンケートに寄せられた質問にお答えします

Q. キリンはどうやって眠るのですか？

A. 野生では立って休むのが基本ですが、安心できる環境では座って休みます。

草食動物は、いつでも敵から逃げられるよう立ったままで眠ることができ、その時間も短いです。しかし安心できる環境や、体力のない子どもは、座ったり伏せたりして眠ります。



キリンの場合、動物園では安全なのが分かっているようで、おとなたちも夜は寝室内で座ります。長い首を立てたままで眠らず休んでいるだけの時間が長いですが、眠るときは首を曲げてあごを太ももに乗せます。ただしその時間は２０～３０分程度と短く、また一晩に数回だけです。座って休むだけなのは数時間と長いですが、体重がかなりあるので、一か所に負荷がかかりすぎないよう、定期的に立ち上がり、次に座るときには必ず足を出す側を左右で変えています。



なお、サイも同様に定期的に左右を変えながら休みますが、それだけでなく、同じ側を下にしている間にも細かく体の角度を変えて、巨体の重さがかかる負担を分散させています。
10月9日～12日「秋の夜のどうぶつえん」の際には、どうしているか、ぜひそーっとのぞいてみてください。

＼紙面向上のため、簡単なアンケートにご協力をお願いします／
アンケートに答えた方に紙面掲載動物のオリジナルデータをプレゼント！

発行：（公財）東京動物園協会　制作：上野動物園
◇無断で複製・転載しないでください　◇紙面に関するご質問等は教育普及係 解説班へ（03-3828-5171）

公式X(Twitter)　公式Instagram